オンライン学習支援者バンクに向けて

（公財）栃木県国際交流協会
地域日本語教育コーディネーター　福田あゆみ

１．課題

外国人住民の日本語学習機会を増やすため、学習者と支援者をマッチングし、オンラインで学習できるよう学習支援者バンクを作る。

２．栃木県の状況

①栃木県における地域日本語教育コーディネーターの役割

栃木県が文化庁「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」を受け、コーディネーターを配置している。現在は（公財）栃木県国際交流協会において、総括コーディネーター１名、地域日本語教育コーディネーター１名が配置されている。業務内容は、「地域内の日本語教室等の情報収集、ニーズ把握、指導・助言等を行う」こととなっている。活動は県内全域の地域日本語教育の場である。今年度は市町、国際交流協会、外国人へのヒアリングや日本語教室、支援者、学習者からの相談に応じているほか、「オンライン支援事業」を行い、支援者や学習者からの希望に応じてオンライン学習を始める際のサポートを行っている。

②栃木県の地域日本語教育の状況

・日本語教室

栃木県には、16 市町に 29 の日本語教室（令和 2 年 4 月時点）がある。宇都宮市、小山市、足利市などの集住地域には複数の教室があるが、散在地域には教室が１つしかなく、9 市町は日本語教室がない空白地域となっている。現在ある教室もコロナ禍で安定した開催が難しい状況となっている。また、オンラインで学習支援を行っている教室は少ない。

・外国人学習者

日本語教室が遠い、時間が合わないなどの理由で、日本語教室に通えない学習者がいる。外国人へのヒアリングや日本語学習に関する相談事業から、オンラインでの支援を希望する声を多く聞く。

③課題設定の背景

委託事業で行っている「オンライン支援事業」では、教室や支援者、学習者を個々にサポートし、オンラインでの学習に踏み出せるようにサポートしている。ただ、学習者が学習支援を望んだ場合に現状では日本語教室を紹介するしかない。そこで、支援者と学習者をマッチングし、オンラインで学習できる仕組みを作ることで、学習機会の拡大を図る。

「オンライン学習支援者バンク」は、委託事業とは別の、協会の自主事業として取り組む。

３.実践活動

支援者バンクの設置に向けて行ったこと

①他県の情報収集

学習支援者バンクのある他県の情報をホームページ等で収集した。

②要領や運用に関する検討、調整、決定

以下の内容について、TIA 業務課課長、総括コーディネーター、地域日本語教育コーディネーターで協議した。

・オンライン学習支援で行う日本語学習の目的　　・支援者バンクの運用

・支援者の登録条件　・学習者の利用条件

・学習者のレベル、ニーズ、利用上のルール

③支援者への声掛け

日本語教室へのヒアリング、学習支援研修会、オンライン支援で出会った支援者の方々に、バンクを紹介し、登録を依頼した。

④実際のマッチング

オンライン支援事業でサポートした支援者から希望があったタイミングで学習者がいたので、マッチングした。１組が実際にオンライン学習を行っている。

４．コーディネーターとして果たした役割

地域日本語教育コーディネーターとして活動を始めて丁度一年経過したところで、本研修に参加する機会を得た。一年目の活動を経て、徐々に日本語教室や支援者に認知してもらえるようになり、研修会や教室支援等を通して支援者の顔が見えるようになった。さらにこの半年の業務の中で支援者の方々と話す機会が増え、お互いを知ることで信頼関係が生まれてきた。その流れでバンクへの登録を直接呼びかけることができるようになった。

バンク設置要領を検討する中では、コーディネーター研修や、専門性を生かすことができたと思う。

今後さらに多くの方々とつながり、連携していきたい。

５．コーディネーターとして大切にしたい視点

地域の日本語教室を思い浮かべると、それぞれの地域の教室を支えている方々の顔、その方々の教室への思いが頭に浮かぶ。それぞれの地域で様々な課題を抱え、奮闘している方々がいる。後方支援としては微力かもしれないが、地域の居場所である教室で支援者と学習者が、どちらも輝けるよう、サポートできたらと思う。情報、アイデア、事例、地域のリソース等を集めて、必要としているところへ届けられたらいいと思う。

６．実践に向け難しいと感じたこと

・県からの委託事業の中で活動しているので、実行できる課題の設定が難しかった。

・オンライン支援者バンクの設置にあたって、どのような方に登録をしてもらうかを決めることが難しかった。全く経験がなく、日本語教育についての知識もない方が、１対１のオンライン学習支援を始めるためには段階が必要なので、今後の課題としたい。

８．今後の予定

令和５年度４月に TIA オンライン日本語学習支援者バンクの運用を開始する。

活動中の支援者向けの研修会を定期的に開催する。